



佐藤良行 議員

弥富中学校の新校舎建設に コストダウンを図ったか

問

私は17年3月議会で、中部国際空港建設時のコストダウンが16・3%と大幅になった主要点を話した。それを受けて市側は「今後の建設物件の参考にすると」の回答をしたが、今回の弥中新築に対し、具体的にどのような検討をしたか。

プロポーザル方式と 一般競争入札を実施

答 教育長

プロポーザル方式により設計者の選定をし、コストダウンをどう行うかも選定の基準にした。
そして、入札方法を一般競争入札で実施する等、コストダウンも十分盛り込んだつもりである。

用語解説

プロポーザル方式とは？

高度な技術を要する業務等でプロポーザル（技術提案書）の提出を求め、企業や技術者の能力を評価し、コンサルタント等の委託者を特定します。

新校舎の特徴は

問

弥富北中建設時は斬新な形状が各方面から大変注目された。

弥中新築に際し、そのような検討がされたか。

後の維持費を考え ノーマルな形を選定

答 教育長

変形校舎は、後の維持管理まで考えると、非常に難しい面がある。いろいろ考えたが、結局はノーマルに近いものを選定した。

廊下幅は、標準の3mに對し、4.5mにした。中庭の下に雨水の貯留層を設け、トイレの洗浄水や植栽に利用することで、緑化・環境対策もしてある。

太陽光発電の追加 設置の再検討を

問

太陽光発電の設置を環境教育に役立てたら、子どもたちの意識が将来の地球温暖化防止の大きな要因になる。弥中に追加設置の再検討をしてはどうか。

費用対効果を考え 導入を見送った

答 市長

今からでも間に合うものは検討しながら、安全対策としてカメラ付きインターホン、校舎出入口に電気錠の設置を決定している。
太陽光発電は、費用対効果という形の中でも一つ確信が得られず、今回は見送った。



▶建設の進む新弥富中学校校舎（鎌島地内）